

講演 4

中央卸売市場の役割と流通のしくみ

福岡市農林水産局 中央卸売市場

市場課長 梶原 学 氏

福岡市農林水産局中央卸売市場・市場課長の梶原でございます。本日は「中央卸売市場の役割と流通のしくみ」についてご説明いたします。よろしくお願いいたします。

表紙には、上から鮮魚市場・青果市場・食肉市場の順に、各施設とせりの風景の写真を掲載しております。

全国の中央卸売市場は、令和4年9月現在で、中央卸売市場は40都市に65市場が設置されております。中央卸売市場は国の認定のもと、全て地方自治体によって運営されております。福岡市には、鮮魚市場・青果市場・食肉市場の3市場がございます。

なお、卸売市場はこの中央卸売市場のほかにも、各県が認定する地方卸売市場があり、令和2年度末現在、全国で908市場ございます。地方卸売市場は、公設が142市場、第三セクターが31市場、民設が735市場となっております。

私どもの中央卸売市場は、生鮮食料品等の流通の中核的な拠点であるとともに、各都道府県の中心都市及び周辺都市圏への供給を行う役割を担っております。地方卸売市場は、その地域における生鮮食料品等の集配拠点としての役割や、地域の特産品を取りそろえて、中央卸売市場へ出荷するなどの役割がございます。なお、福岡市内には、地方卸売市場として東区に福岡花市場がございます。(スライド1)

農林水産省は、平成30年に「卸売市場に関する基本方針」を打ち出しております。その中で、

「中央卸売市場及び地方卸売市場が有する集荷及び分荷、価格形成、代金決済等の調整機能は重要であり、流通の核として国民に安定的に生鮮食料品等を供給する役割」、また、「流通が多様化する中で、卸売市場は、生鮮食料品等の公正な取引の場として、高い公共性を果たしていくこと」を期待するとしています。

また、「卸売市場法」には、特定の取引参加者を優遇する不当な差別的取扱いの禁止や取引条件や取引結果の公表をはじめ、中央卸売市場には、生産者からの受託拒否の禁止などの遵守事項も記されております。(スライド2)

中央卸売市場は、国民に安全・安心な生鮮食料品を円滑に供給する基幹的インフラであり、卸売業者が全国各地から集荷した大量かつ多種類の商品を、仲卸業者が適量に分荷して販売することで、広く消費者に届ける役割を担っております。

生産者にとっては、天候の変動等によって計画的に生産することが困難な農水産物についても、品質や量にかかわらず、いつでも出荷することができる存在となっております。一方で、量販店・小売店・飲食店などの仕入れ者にとっては、「大量かつ、さまざまな商品の中から消費者ニーズに合致するものを選んで購入できる」「産地や気候によって品質が異なる商品を公正に評価し、価格を決定する機能を有する」などのメリットが大きいと考えています。

近年、産地との直接取引やインターネット販売など中央卸売市場を経由しない流通形態が広

がっていますが、生産者の皆さんがこのような新たな流通形態にチャレンジしていくためにも、中央卸売市場が持つ、受託拒否の禁止という、生産者の方へのセーフティーネットとしての機能が重要な役割であると考えております。(スライド3)

次は、市場で働いていただいている皆さんの種別でございます。

農林水産大臣の認定を受けた「開設者」というのが福岡市でございます。生産者の方からの取引の窓口となる卸売業者、市場内に店舗を持つ仲卸業者、市場内に店舗を持たない売買参加者、仲卸売業者から買入れ消費者へ販売する買出人、市場内で冷蔵庫業や運送業を営む関連事業者で構成されています。

また、これら市場関係者の皆さんは、福岡市の認定・承認・許可といった手続きが必要となっており、一般の方は市場内での取引はできないこととなっております。ただし、鮮魚市場と青果市場には、市民の方も気軽に食事や加工品の購入ができるエリアがございますので、是非ご利用ください。(スライド4)

福岡市の各市場の位置図です。青果市場、通称ベジフルスタジアムは、東区みなと香椎3丁目でございます。食肉市場は、東区東浜2丁目でございます。鮮魚市場は、中央区長浜3丁目でございます。(スライド5)

福岡市中央卸売市場の歴史でございます。昭和30年に長浜に鮮魚市場、昭和34年に箱崎に食肉市場、昭和35年に長浜・香椎・千代・高宮・雑餉隈・姪浜に青果市場が開場しました。青果市場は、その後、那珂・拾六町・下原の3市場へ統合移転し、平成28年には現在のみなと香椎の1市場へ統合移転しております。食肉市場においては、平成12年に箱崎から現在の東浜へ移転しております。鮮魚市場は、長浜において再整備事業や高度衛生管理整備事業を経て、現在、老朽化した施設への対応や魚食普及の取り組みとして、機能更新・向上事業に着手しています。

(スライド6)

それでは今から3市場を個別にご説明いたします。鮮魚市場について、ご説明いたします。写真は鮮魚市場の航空写真でございます。(スライド7)

鮮魚市場でございますけれども、皆さん中央卸売市場という名前を聞いたときに、東京都の豊洲市場をイメージしていただくと分かりやすいのですが、全国からトラックで魚介類が集荷されて、都市圏へ供給されている風景が浮かぶと思います。

次に、地方卸売市場をイメージしていただくと、例えばサバ・イワシが主流の千葉県の銚子漁港、マグロが主流の静岡県の焼津漁港、カニ・ブリの鳥取県の境港漁港、カツオの鹿児島県の枕崎漁港など、船から水揚げされ、全国へ出荷されている風景が浮かぶと思います。ここが大きく中央卸売市場と地方市場のイメージでございます。

ただ、福岡市鮮魚市場は、トラック輸送による九州各地からの魚介類の集荷に加え、博多漁港に面していることから、遠洋旋網漁業の基地として船からの水揚げが行われております。こういったことから、福岡市の鮮魚市場は、中央卸売市場いわゆる消費地市場として、福岡都市圏へ供給するとともに、地方卸売市場いわゆる産地市場として全国へ出荷するという両面の機能をもっている、全国でも珍しい中央卸売市場となっております。(スライド8)

スライド9は、鮮魚市場の1日です。深夜に生産者から搬入され、卸売業者による陳列、仲卸業者の下見を経て、午前3時からせりが行われています。他の中央卸売市場では、おおむね5時頃が多いと聞いています。

取引には概ね「せり取引」と「相対取引」がございます。「せり取引」は、卸売業者が仕切って、仲卸売業者などが競り合って価格形成を行うものです。よく皆さんがテレビなどで見られ

るものが、せり取引です。「相対取引」は、卸売業者と仲卸業者などが、販売価格及び数量について交渉の上、販売する方法です。全国的には相対取引が主流であり、令和2年度の全国のせり取引の割合は金額ベースで12.5%でございます。

皆さんは、豊洲のマグロのせり取引をテレビなどでよく見られると思います。東京都のせり割合は令和3年の金額ベースで12.9%、福岡市鮮魚市場は64.4%と高いせり割合になっているのも特徴です。数量で言いますと、80.8%がせり取引です。

せり開始の時間が早いことなどは、天然の青物が多いために鮮度保持、産地機能として全国への出荷などスピード感を重視したものと考えており、この結果が市民の皆さまへの新鮮さの提供につながっているのではないかと考えております。

次に、鮮魚市場のせりです。鮮魚市場では、卸売場内を移動しながら、陳列された魚介類の前でせりを行う「移動せり」という手法を取っております。(スライド10)

スライド11は、鮮魚市場の概況です。平成30年度から令和4年度の直近5年間では、数量は約13.6%の減、金額に直しますと、約3.8%の増となっております。取扱数量については、漁業就業者及び水産資源の減少・消費者の魚食離れなど、複合的な要因により、減少傾向にございます。取扱金額については、円安の影響による輸出に牽引された魚価の上昇や、コロナ禍の行動制限の収束による飲食店やホテル等の需要拡大、また、インバウンド需要の拡大などの影響が考えられると業界からは聞いております。

次に、鮮魚市場の統計データでございます。魚種別では、ブリ、サバ、アジなどのいわゆる青物の取り扱いが多く、産地別では、長崎県が約47.7%となっております。

次ですけれども、平成25年から令和4年までの、過去10年間の国内主要卸売市場における水

産物の取扱数量の比較でございます。最大の水産市場である東京都も大幅な減少となっております。国内の主要市場全てが取扱数量を減少させています。減少率は、主要市場の中でも最も低い、福岡市及び仙台市でも20%を超えており、主要市場は平均して35%以上の減少となっております。なお、福岡市の取扱数量は全国で第6位、取扱金額は第9位となっております。(スライド12)

鮮魚市場ですが、市民の方々に身近に感じて、魚食への関心を高めていただくために、普段は入ることのできない鮮魚市場の一部を開放し、魚介類の販売をはじめ、マグロの解体ショー、魚のさばき方体験、子どものお魚料理教室、子ども寿司握り体験、模擬せりなどのイベントとして、市民感謝デーを開催しています。なお、令和5年度は、4月、5月、6月、10月、11月、12月の第2土曜日の午前9時から正午まで開催しております。10月、11月、12月とございますので、是非、皆さんもご参加いただきますようお願いいたします。(スライド13)

次に、青果市場でございます。青果市場は先ほどご説明いたしましたとおり、市内に3カ所ありました青果市場を統合しています。この移転統合に合わせ、密閉式定温卸売場を備えるなど、コールドチェーンに対応した高度な品質管理が可能な施設として、より安全で安心な青果物を市民へ供給する卸売市場となっております。さらに令和2年には、青果市場として国内第1号となる品質管理に関するJASの認証を取得しております。(スライド15)

青果市場の1日です。前日から搬入され、卸売業者による陳列、仲卸業者の下見を経て、午前7時からせりが行われています。全国的には先ほど説明しました相対取引が主流でございます。令和2年度の全国の青果のせり取引の割合は、金額ベースで野菜が6.8%、果実が11.9%となっております。福岡市青果市場も同様に、せ

り取引は野菜が8%、果実が8.4%となっております。(スライド16)

青果市場のせりでございます。「固定せり」と「移動せり」の2つの手法を取っております。(スライド17)

次に、青果市場の概況でございます。平成30年度から令和4年度の直近5年間では、30万トン強の取扱数量、約650~700億円の取扱金額が比較的安定して推移しております。青果物は、天候や作物の病気流行などにより、生産量が減少する場合、単価が高くなるが多々ございます。量販店などで、皆さん、先週は98円だった青果物が、今週は198円になったという経験があると思います。このように、3市場の中でも最も需要と供給のバランスによる価格形成が出てくる市場なのかと考えております。なお、新型コロナウイルス感染症の際には家庭内消費が増加し、需要と供給のバランスから、高値で推移した時期もあったと聞いております。(スライド18)

青果市場の取扱状況でございます。取扱数量ですが、野菜ではハクサイ、キャベツ、タマネギ、果実ではバナナ、リンゴ、ミカンの順となっております。産地別ですが、野菜では福岡県、北海道、長野県を中心として、九州各地から集荷されています。果実では、国外からが46.3%を占めていますが、フィリピン産のバナナ、パイナップルをはじめ、ニュージーランドからキウイ、アメリカからオレンジやレモンなどの集荷があるためでございます。また、本州では青森県のリンゴが占める割合が多いと聞いております。

平成25年から令和4年まで、過去10年間の国内主要卸売市場における青果物の取扱数量の比較でございます。水産市場と同様に、国内の主要市場全てが取扱数量を減少させています。減少率は、主要市場の中でも最も低い名古屋市及び大阪市が2%程度であるのに対し、最も高い仙台市では40%弱となっております。福岡市は

6%の減となっております、減少率は最も低い名古屋市、大阪市に次ぐ水準となっております。なお、福岡市は取扱数量、金額ともに、全国第5位となっております。(スライド19~21)

青果市場では、野菜や果物の消費拡大を目的として皆さんに喜んでいただけるよう、通常、一般来場者には販売を行っていない野菜や果物を特別に販売するイベント、「ベジフル感謝祭」を毎月第3土曜日に開催しています。ベジフル感謝祭では、野菜や果物だけでなく、干物や花、菓子などの商品も販売しています。なお、通常8時から11時までですが、9月と10月は7時半から10時までの開催時間としています。鮮魚市場市民感謝デーと同様に、青果市場のベジフル感謝祭もぜひご参加いただけますようお願いいたします。(スライド22)

それでは、食肉市場についてご説明いたします。畜産業が盛んな九州で、唯一の中央卸売市場でございます。平成12年の東浜への移転に伴い、卸売業者がISO9001やISO22000を取得し、食品製造工程の衛生管理手法であるHACCPに基づく管理体制を充実させるなど、高度な衛生管理システムを備え、安全・安心な食肉の供給を行っております。(スライド24)

スライド25は、食肉市場の1日です。せり開始日の前々日から入荷され、翌日にと畜・解体が行われます。その翌日に売買参加者の下見を経て、午前11時30分からせりが行われます。他の市場と異なり、入荷からせり取引まで3日間を要します。また、本市には、食肉衛生検査所が設置されており、「と畜場法」に基づき、食肉市場に搬入されたウシやブタについて、1頭ごとに生体から枝肉になるまで、各工程で生体検査、解体前検査、解体後検査を実施し、食肉の安全安心の確保に努めております。

全国10カ所の中央卸売市場食肉市場においては、せり取引が主流でございます。令和2年度の全国のせり取引の割合は金額ベースで86.6%



となっています。福岡市食肉市場では牛は95.1%、豚は23.9%となっています。

次に食肉市場のせりです。食肉市場では「機械ぜり」の手法を取っています。よく皆さんが聞かれるA5ランクなどの格付けは、先ほどの検査を通過した後に、日本食肉格付協会の方が実施しています。(スライド26)

牛の格付けは、A、B、Cの歩留等級と、1から5までの肉質等級で判断されます。豚の格付けは総合的に判断され、等外から極上までの5つの等級に分かれています。(スライド27)

スライド28は、食肉市場の概況でございます。平成30年度から令和4年度の直近5年間では、数量7%の増、金額は18.4%の増となっています。牛では数量は20.9%の増、金額で21.2%の増。豚では数量は5.4%の減、金額では9.1%の増となっています。

コロナ禍におきましては、外食需要が減少したホテルや飲食店を中心とする事業者の皆さまへの影響はございましたが、家庭内需要の増加などにより、市場全体としての影響は大きくありませんでした。ただし、特に令和4年度からですが、飼料の価格や燃料費の高騰、物価高による消費者の節約志向、輸入肉の不安定な調達状況など、複合的な要因が取扱高に影響していると聞いております。

次に、食肉市場への県別の入荷頭数でございます。牛、豚ともに佐賀県産が多く、ほぼ九州・山口から入荷しております。

平成25年から令和4年までの過去10年間の国内主要卸売市場の食肉の取扱数量でございます。仙台、横浜、京都、福岡の4市場が増加しており、他の市場は減少しております。また、福岡市は京都市と並ぶ高い増加率となっております。10年前と比較して、約6%の増となっています。なお、福岡市は取扱数量、金額とともに、東京都に次ぐ全国第2位となっております。(スライド28、29)

スライド30は、食肉フェスタでございます。

食肉市場では、九州産のブランド食肉の普及促進を図ることを目的として、年1回食肉フェスタを開催しています。コロナの影響により、昨年度までは中止していましたが、今年度は来年の1月に福岡市役所西側ふれあい広場で開催いたします。お肉の試食やブランド牛肉、豚肉の販売、調理品の販売をはじめ、各種イベントを開催いたしますので、ぜひご参加ください。

それでは最後になります。福岡市中央卸売市場は全国で13番目、九州内で初の中央卸売市場として、昭和30年2月に農林水産大臣から認可され、鮮魚市場、食肉市場、青果市場の3市場が開業し、整備されています。九州を中心に全国から集荷した生鮮食料品を市民、県民、来福者に対して、安全・安心、安定的にお届けする役割を果たすとともに、多種多様な選択肢から商品を選択できる環境を整えることが、福岡市の食べ物がおいしいまちとしての評価につながっていると考えています。

また、本市場では多くの市場関係者の方が働いていらっしゃいます。令和4年度の福岡市中央卸売市場の取扱金額は、3市場合わせて1,448億円となっています。このため、量販店、飲食店、ホテル、小売店、食品加工業など、生鮮食品等を介した多種多様な産業と雇用が創出され、市内、県内を中心とした地域経済へも貢献していると考えております。

さらに九州は農業で全国の約2割、水産業では約2.5割の生産額を有する農水産業が盛んな地域でございます。この九州において、最大の消費地である福岡市に位置する本市場は、九州の経済振興及び雇用創出にも寄与しているものと考えています。温暖化による気候変動、資源の減少、生産者の減少、食生活の変化、流通ルートが多様化、諸外国の政治経済情勢などの影響により、卸売市場を取り巻く環境は変化しています。

福岡市中央卸売市場では食品流通における基

梶原 学

幹施設として、これらの社会情勢の変化に対応しながら、その機能、役割を今後も最大限に発揮していくために、引き続き、市場関係者の皆さんと連携した取り組みが必要であると考えて

おります。(スライド31)

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。



## 中央卸売市場の役割と流通のしくみ

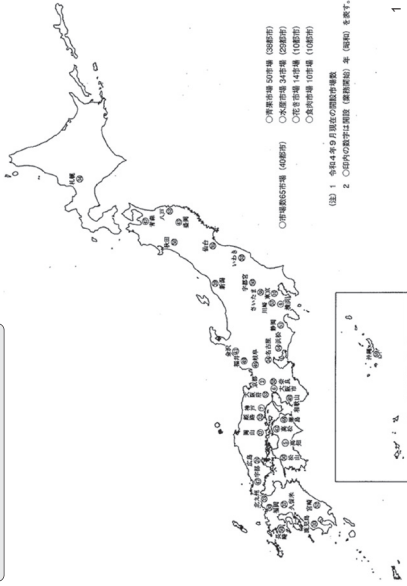


農林水産部 市場のシンボルマーク  
みのりん

### 福岡市農林水産局中央卸売市場

0

## 全国の中央卸売市場



- 東京中央卸売市場 (品別別所)
- 大阪中央卸売市場 (品別別所)
- 名古屋中央卸売市場 (品別別所)
- 福岡中央卸売市場 (品別別所)

(注) 1 各都道府県の品別の卸売市場  
2 品別の卸売市場 (品別別所) 等 (別所) を示す。

1

## 中央卸売市場の役割と流通のしくみ

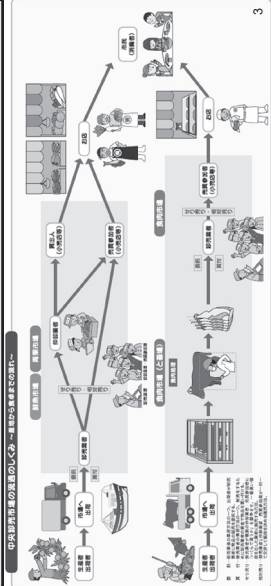
### 卸売市場に関する基本方針

○卸売市場の位置付け  
中央卸売市場及び地方卸売市場(以下単に「卸売市場」という。)は、有する集荷及び分荷、価格形成、代金決済等の調整機能は重要であり、卸売業者の相互調整機能が果たされることにより、食品等の流通の核として国民に安定的に生鮮食品等を供給する役割を担うことが期待される。  
やむを得ない場合の例外として、卸売業者は、生鮮食品等の公正な取引の場として、特定の取引参加者を必要とする差別的取引の禁止のほか、取引条件や取引経路の公表を公正かつ透明を旨とする共通の取引ルールを遵守し、公正かつ安定的に調達を行うことにより、高い公共性を必要としていくことが期待される。  
また、地方公共団体を始めとする関係者は、地域住民からの生鮮食品等の安定供給に對するニーズに応えつつ、高い公共性を果たす必要がある。

- ① 集荷 多種多様な品目を集める
- ② 価格形成 「けり」等の取引により、需給を反映した公正な価格を決める
- ③ 分荷 多数の小売業者等へ迅速・確実に分配
- ④ 代金決済 取引価格代金を迅速に決済
- ⑤ 情報受発信 需給に際する情報の収集・伝達


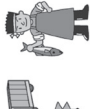

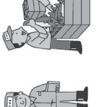
2

中央卸売市場は、国民の食生活に必要不可欠な生鮮食品を、一年を通して全国の産地から集荷し、国民に安心・安全な生鮮食品を円滑に供給する基幹的インフラであり、卸売業者が全国各地から集荷した大量かつ多種類の商品を卸売業者が適量に分割して販売することで、広く消費者に届ける役割を担っている。生産者にとっては、天候の変動等によって計画的に生産することが困難な農水産物についても、品質や量に關わらず、いつでも出荷することがある存在となっている。  
一方で、重販店・小売店・飲食店などの仕入者にとっては、「大量かつ様々な商品の中から消費者ニーズに合致するものを選んで購入できる」「産地や気候によって品質が異なる商品を公正に評価し、価格を決定する機能」を有する「などのメリットが大きい。  
近年、産地との直接取引やインターネット販売など流通形態が多様化していることは事実であるが、その中でも中央卸売市場は、食品流通の核として重要な役割を担う存在である。



3

### 市場で働く人々

**開設者（福岡市）**

卸売部法や業務条例等に基づいて、市内での取引が適正に行われるよう業、食料品を、せり等を通じて卸売業者の相対取引等を行います。農林水産大臣の認定を受けて市場を開設しています。

**仲卸業者**

せり等を通じて卸売業者から買入れた生鮮食料品を、市内内の店舗で買入に販売します。

**売買参加者**

市場の成務を認けてせり等に参加し、買入れた生鮮食料品の販売や市場外で行う者です。小売業者、飲食店、加工業者等です。

**買出人**


卸売業者から生鮮食料品を買い入れ、市場外で販売等を行う者です。小売業者、飲食店、加工業者等です。

**関連事業者**

市場を利用する人のために、市場内で冷蔵庫、運送事業、飲食店等を営んでいます。

**4**

### 福岡市中央卸売市場



**青果市場（ベジフルスタジオ）**

東区みなと香椎3-1-1

**鮮魚市場**

中央区長浜3-11-3

**食肉市場**

東区東浜2-85-14

5

### 福岡市中央卸売市場の歴史

昭和30年6月  
福岡市中央卸売市場開設  
鮮魚市場付属（中央区長浜3丁目）  
卸売業者は福岡卸売市場、福岡中央卸売市場の2社

昭和34年9月  
食肉市場付属（東区長浜7丁目）  
卸売業者は福岡食肉市場

昭和35年3月  
青果市場付属（中央区長浜3丁目、他 香椎、千代、高宮、桂納、霞浜の5分譲）  
卸売業者は福岡大同果業

昭和43年9月  
長浜、高宮、桂納線を閉鎖統合し、青果市場移転（博多区長浜6丁目）

昭和49年6月  
霞浜を閉鎖し、西部（東区）市場別属（西区大字治4丁目）

昭和57年7月  
香椎、千代を閉鎖統合し、霞浜（東区）市場別属（東区大字下原）

平成5年度～平成18年度  
鮮魚市場再整備事業

平成12年4月  
食肉市場移転閉鎖（東区北浜）

平成28年2月  
3市場を閉鎖統合し、青果市場移転（みなと香椎3丁目）

平成27年度～令和3年度  
鮮魚市場高層衛生管理整頓事業

令和2年度～  
鮮魚市場機能更新・向上事業



6

### 鮮魚市場



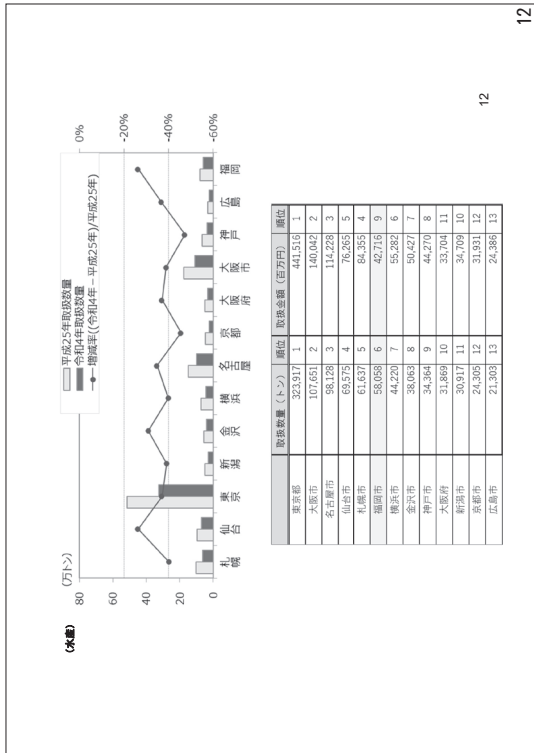
H5年度～H18年度 再整備事業費 235億円

H27年度～R3年度 高層衛生管理整備事業費 38億円

**7**







12

12

## 「市民感謝デー」

仲卸売店舗など市場の一部を一般開放し様々なイベントを実施！

鮮魚の販売

子どもお寿司握り

開催日 平成27年4月～6月、10月～12月、第2土曜日  
時間 9時～12時 (仲卸売店の営業時間は1時まで)

マグロ解体ショー

模様せり

13

## 青果市場 (ベジフルスタジアム)

H22年度～H27年度 移転事業費 400億円

14

14

**概要**

所在地 福岡市東区みなと橋 3丁目  
開場年月日 平成 28 年 2 月 12 日  
敷地面積 約 150,000㎡

**ベジフルスタジアムの特徴**

ベジフルスタジアムでは、新鮮で安全・安心な青果物を消費者の皆様にお届けするため、コールドチェーンの導入や残留農薬検査の強化に取り組んでいます。

全国最大級の段階式定温型冷蔵・凍結庫を備えるとともに、市場内運搬車両の電動化を推進するなど高質な品質管理が可能な市場となっております。

また、福岡県市場への安定供給という中央卸売市場の役割を担うことから、近隣地区に立地した販路拡大を図り、アジアをはじめとした海外マーケットの開拓にもチャレンジしています。

「青果市場の低温管理」  
令和2年1月10日 取店取得

**品質管理に関する認証の取得**

JAS0011  
「青果市場の低温管理」  
令和2年1月10日 取店取得

ベジフルスタジアムは、国が定める新しいJAS規格の認証を国内第一号で取得しました。

この認証取得により、国内外にわかりやすくベジフルスタジアムの取り組みがPRできるようになりまし。

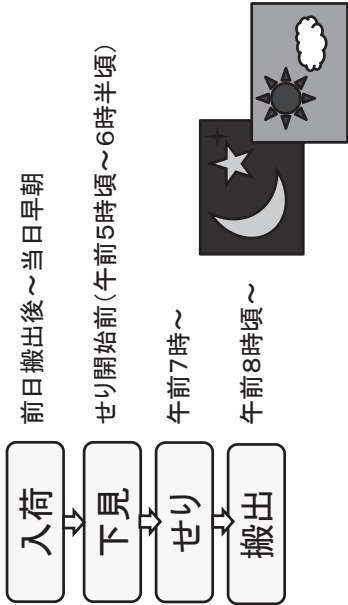
**安全・安心の取り組み「コールドチェーンの確立」**

コールドチェーンとは、最初から消費時まで低温に保った状態で、生鮮食品等の流通を指す仕組みのことです。

ベジフルスタジアムでは卸売市場の役割を低温管理としています。そのため、新鮮な状態で市場に出荷された商品により消費決定、一定の温度で管理することができ、品質を確保することが可能です。

15

## 青果市場の1日



16

## 青果市場のせり

### 「固定せり」

主に農協など品質が安定し、量が多いものについて、見本を見せながらせりにかける。「見本せり」ともいう。



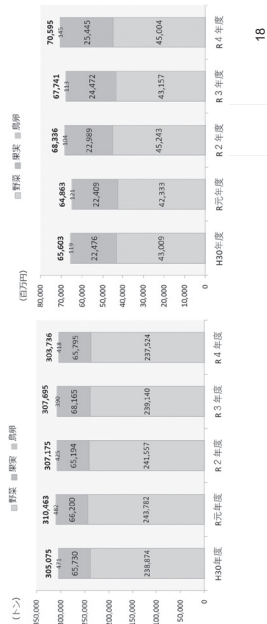
### 「移動せり」

比較的少量のものや、個人生産者のものを販売。全部の品物を一つ一つ見せてせりを行っているので、「現物せり」ともいう。

17

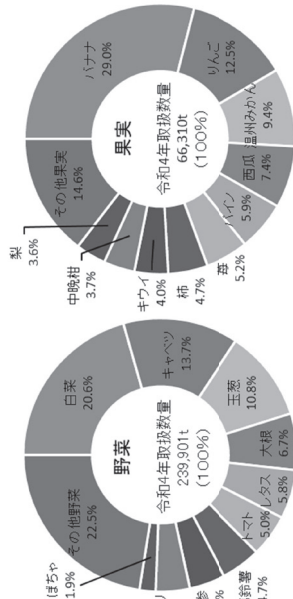
## 青果市場の概況

平成20年度から令和4年度の直近の5年間では、数量はほぼ変わらず、金額は約50億円(約7.8%)の増となっています。  
令和の年度以降、新型コロナウイルスの影響による需給の激動や、円安の影響による輸入青果物の高値等の影響により、青果物全体でみるとやや高値の傾向にあります。



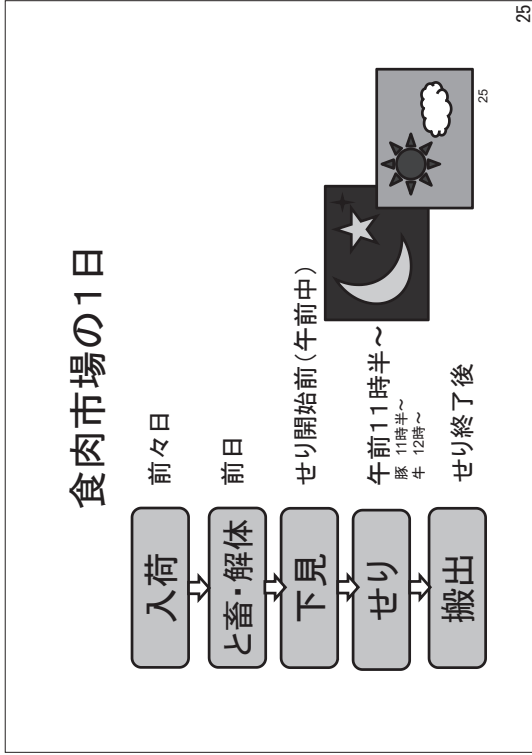
18

## 青果市場の取扱状況



19





### 食肉市場の特徴

畜産業が盛んな九州で唯一の中央卸売市場の食肉市場である福岡市食肉市場には、日々、九州各地からさまざまなブランド牛やブランド豚が出荷され、元気あるせり取引が行われたのち、美味しいお肉が消費者の皆さんの元へ届けられています。

### 概要

所在地 福岡市東区東浜2丁目  
開業年月日 平成12年4月1日  
敷地面積 47,000㎡

### 安全・安心の取り組み「ISO22000の取得」

「安全・安心で高品質な食肉を消費者に供給する」という使命のもと、福岡市食肉市場の管理運営を行う卸売会社（福岡食肉市場（株））が、平成12年に、日本の食肉市場としては初めて、ISO9001を取得、さらに、平成28年にはISO22000を取得し、日々、衛生的で、安全・安心な食肉の供給に努めています。

24

## 牛の格付け

歩留等級

歩留等級	肉質等級				
1	2	3	4	5	
A	A1	A2	A3	A4	A5
B	B1	B2	B3	B4	B5
C	C1	C2	C3	C4	C5

※ 枝肉から骨や余分な脂肪など取り除いた部分肉の割合)

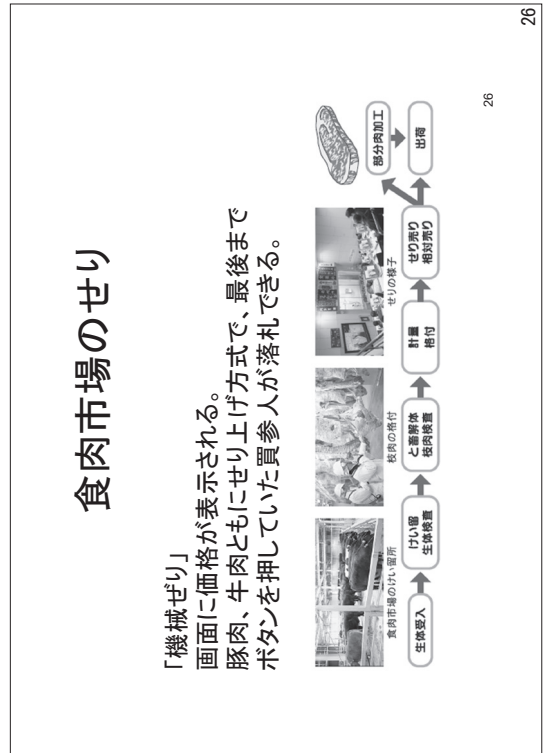
## 豚の格付け

重量及び背脂肪の厚さの範囲」「外観」「肉質」から総合的に判断する。

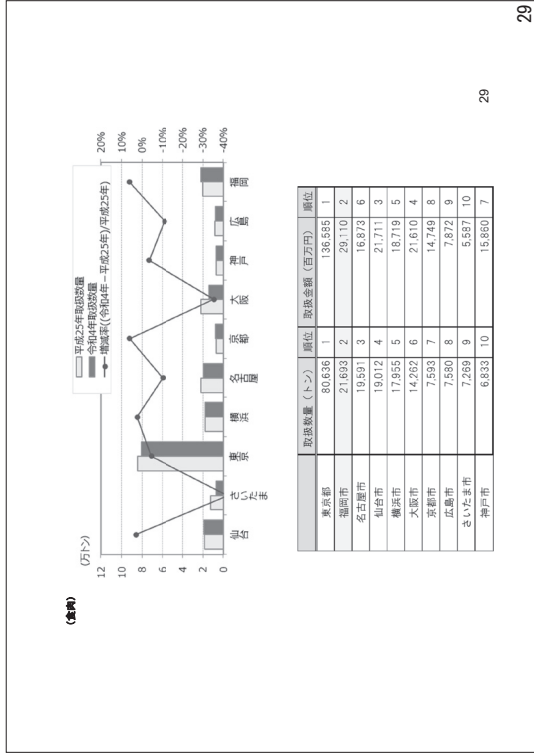
等級		
極上	上	中
並	並	並
等外	等外	等外

※ 日本食肉格付協会による

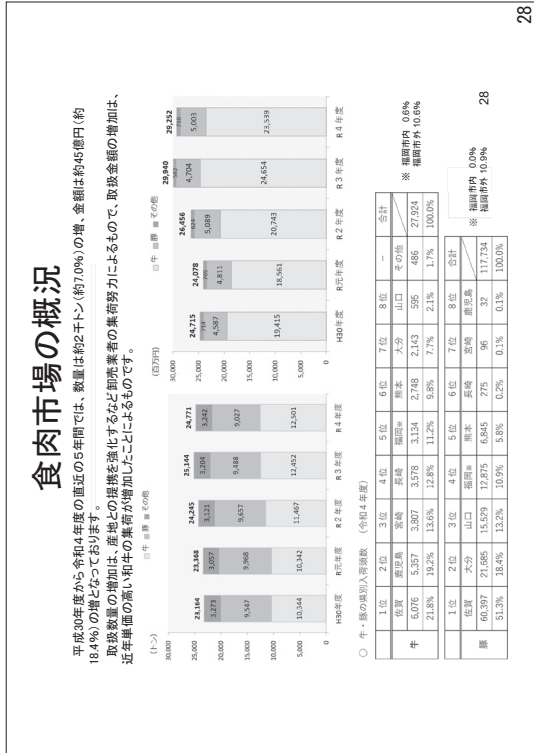
27







29



28

### 福岡市中央卸売市場の必要性と今後の方向性

福岡市中央卸売市場は、全国で13番目、九州内で初の中央卸売市場として、昭和30年2月に農林水産大臣から認可され、昭和30年6月に鮮魚市場、昭和34年9月に食肉市場、昭和35年3月に青果市場が開場し、その後48年経って、九州を中心に全国から集荷した生鮮食品等を安全・安心・安定的に消費者へ届ける役割を果たしており、市民、県民、米福新に対して、多様な多様な選択肢から商品を選択できる環境を整えることで、食への物おい、暮らしの豊かさを支えているものと考えている。

また、本市では、多くの市場関係者が働いており、令和4年度の福岡市中央卸売市場の取扱金額は3市場合わせて約1,448億円となっている。市場への集荷と市場からの集荷により、量販店・飲食店・ホテル・小売店・食品加工業など生鮮食品等を介した多様な多様な産業と雇用が創出され、市内・県内を中心とした地域経済へ貢献しており、さらに、九州は、農業では全国の約2割、水産業では約2.5割の生産額を有する産水産物産地であることから、九州最大の消費地である福岡市に位置する本市市場は、九州の経済振興及び雇用創出にも寄与しているものと考えている。

その一方で、近年は、温暖化による気候変動、資源の減少・食生活の変化、流通ルートの変更、水産物の減少などにより、卸売市場を取り巻く環境が大きく変化している。

福岡市中央卸売市場では、食品流通における競争力強化として、社会情勢の変化に対応しながら、その機能・役割を今後最大限発揮していくために、引き続き、市場関係者と連携した取り組みが必要であると考

31

### 「食肉フェスタ」

令和5年度は、令和6年1月27日(土)に開催予定

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和は、3、4年度は開催なし

場所:福岡市役所西側ふれあい広場  
時間:午前11時~午後4時

30